

《X 改章・改善》

【自己点検・評価について】

(1)短期大学では自己点検・評価を、短期大学の運営のなかでどのように位置づけているか、また自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

1. 自己点検・評価の本学運営における位置づけ

本学が自己点検評価報告書を初めて刊行したのは平成12年3月であるが、その「はじめに」で末岡熙章学長は次のように述べている。

「21世紀に向けて社会的に評価される魅力的な短期大学を目指し、不断の努力を重ねていくため、自己点検・評価の確立と教育水準の向上に（本書を）役立たせていくことを願う。」（『市邨学園短期大学の現状と課題』平成12年3月）

学長のこの言葉に示されているように、自己点検・評価活動は本学の高等教育機関としての水準を維持していくために不可欠の取組みであると考えられてきた。

とりわけ、平成16年の認証評価制度の発足に伴い、短期大学基準協会の定める評価基準に照らして、本学の教育はいかに改善されるべきかを模索してきた。今日、自己点検・評価活動は、本学運営の基底をなしている。

2. 自己点検・評価を実施するための組織、規程等の整備状況

(1)学則変更

本学は、平成3年の短大設置基準の改定に伴い、これに対処するために、平成5年4月特別委員会を設置した。その課題としたものは以下のとおりである。

- ①本学の教育理念および各学科の教育目標の見直し
- ②自己点検・評価のあり方
- ③教育課程の見直し
- ④シラバス（授業計画）の見直し

これらの課題の審議を踏まえ、本学教授会は、平成8年10月、学則の変更を行い、自己点検評価活動を本学の任務とすることをその中に盛り込むこととした。

(2)「市邨学園短期大学自己点検評価委員会規程」の制定

平成5年4月に設置を見た特別委員会の中間答申を受けて、本学教授会は、平成8年7月、「市邨学園短期大学自己点検評価委員会規程」を制定した。

(3)「自己点検評価委員会規程」の見直し

平成16年の認証評価制度の発足に伴い、本学自己点検評価委員会はそれに対処するための課題を設けた。その主要な点は、本学の教育理念および学科の教育目標の見直しと、「委員会規程」の見直しであった。前者については平成17年度から18年度にかけて行い、後者については

平成19年9月の教授会でこれを決定した。

「委員会規程」の改正点は以下のとおりである。（下線部参照）

- ①委員会は自己点検・評価活動の結果を定期的に公表する。
- ②委員会は、自己点検・評価を行うに当たり、本学の教育理念及び教育目標の見直しを全学に提起し、これを主導する。
- ③委員会は、認証評価（第三者評価）、外部評価及び相互評価の実施に際して、その業務を担う。
- ④委員会は、学長、副学園長、副学長、事務局長、第三者評価連絡調整責任者（ALO）、保育科長、キャリアデザイン学科長、各学科及び学術研究センターより選出された若干名の委員で構成する。

◆名古屋経済大学短期大学部学則 参照

◆平成17年10月教授会議事録 参照

◆平成18年11月教授会議事録 参照

◆平成19年9月教授会議事録 参照

3. 今後、自己点検・評価をどのように実施しようと考えているか

本学の今後の自己点検評価活動についての考え方は以下のとおりである。

- ①認証評価のサイクルに合わせて自己点検・評価活動を推進する。
- ②認証評価のサイクルの中間時点に相互評価、外部評価を実施する。
- ③自己点検評価活動は毎年の積み重ねが重要であるので、年々の点検・評価活動を踏まえた年次ごとの行動計画を立て、その実践に努める。

ちなみに、年次ごとの行動計画については、大学運営戦略会議の求めに応じて、学科の「改革充実に関する計画」を両学科が提出し、実践している。この取組みを今後定着させることが重要だと認識している。

◆平成19年3月「保育科プロジェクトチーム提案」参照

◆平成19年3月「キャリアデザイン学科の充実に関する計画案」参照

(2)過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の自己点検・評価報告書の発行状況を記述して下さい。またその報告書の配付先の概要を記述して下さい。なお過去3ヶ年(平成17年度～19年度)にまとめられた自己点検・評価報告書を訪問調査の際にご準備下さい。

1. 過去3ヶ年(平成17年度～19年度)の自己点検・評価報告書の発行状況

- (1)過去3ヶ年においては本報告書の作成・発行が唯一のものである。
- (2)平成12年以来、本格的な報告書の作成を行ってこなかった。ただし、毎年の学生による授業評価アンケートの結果については、平成18年度以後、大学のウェブサイトに掲載し公表している。また隔年に行っている学生生活アンケートの結果についても、平成17年より大学のウェブサイトに掲載し公表している。

◆名古屋経済大学ウェブサイト「自己点検評価活動」 参照

2. 報告書の配付先の概要

本報告書の配布先

- ①短期大学基準協会
- ②地域総合科学科を有する短期大学
- ③近隣の短期大学
- ④その他

【自己点検・評価の教職員の関与と活用について】

(1)平成19年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲を記述して下さい。
また今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているかを記述して下さい。

1. 平成19年度までに行った自己点検・評価に関わった教職員の範囲

(1)大学運営戦略会議の取組み

平成17年2月に設置された大学運営戦略会議は名古屋経済大学および名古屋経済大学短期大学部にまたがる組織であるとともに、教職員すべてをカバーする取組みを行ってきた。

大学運営戦略会議はそのもとに五つのワーキンググループをおき、教育活動を始め学生サービスのすべての領域を点検対象とした。したがって、この取組みは学園初の総合的な自己点検・評価活動であった。

とりわけ、教職員すべてを対象とする、建学の精神の現代的解釈についてのアンケート調査(平成17年)は、大変意義のあることであった。

(2)短期大学部における自己点検・評価活動

本報告書をまとめるに際し、これに関わった教職員は以下のとおりである。

①自己点検評価委員会

当委員会が自己点検評価活動を主導した。

②FD委員会

FD委員会は平成18年度より自己点検評価委員会と行動をともにし、今回の取組みを協働してきた。

③常設委員会の関与

学生サービスの中核を占める学生委員会および就職委員会は、組織としてこの取組みに関与した。

④事務局の関与

事務局のすべての部局が取組みに関与した。

⑤この報告書の暫定稿をすべての教職員に送り、内容の検討を依頼した。その結果貴重な意見を各方面から得ることができた。

2. 今後、どのような教職員の関わり方が望ましいと考えているか

今後も、今回の経験を活かしながら取り組んでいく。

とくに改善したいことは、両学科およびすべての常設委員会が自己点検・評価活動の主体として日常的に取り組む体制を作ることである。そのためには、それぞれの単位で年次計画を立て、これを実行していくことが先決であるとする。

(2)平成19年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。また今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているかについても記述して下さい。

1. 平成19年度までに行った自己点検・評価結果の活用についてその実績

(1)学生サービスの向上

平成17年2月に設置された大学運営戦略会議がまとめあげた答申に基づいて、とくに学生サービスの面で以下のことが実現した。

①教職員の在籍表示システムの導入

教職員の出勤状況を一目で確認でき、学生との面談などに役立っている。

②スクールバスの充実

平成19年4月よりスクールバスの便数を抜本的に改善し、学生の通学の便を改善した。また、バスのダイヤをWeb上に表示し、便利さをさらに改善した。

③学生食堂への出店増

④コンビニエンスストアの開店

(2)教育活動における改善

大学運営戦略会議は通常の授業の公開を提起している。すべての授業を外部に公開することを目指している。

これを受けて、本学では平成19年後期に、両学科でそれぞれ1回、同僚に対して授業を公開し、批評を仰いだ。

(3)「改革充実に関する計画」の策定

大学運営戦略会議は平成19年3月に、各学部、各学科の「改革充実に関する計画」の策定を求めた。

これは各組織のプロジェクトチームが中心となってまとめられたが、素案を各組織の討議にかけて了承を得た。

2. 今後、自己点検・評価の結果をどのように活用しようと考えているか

大学運営戦略会議の取組みは本学にとって貴重な経験となった。自己点検・評価活動を次の課題達成につなげていく仕組みと方法を学ぶことができた。これは短期大学基準協会の提起する「評

価文化」を具体化するものであると思われる。

【相互評価や外部評価について】

(1)平成19年度までに行った相互評価及び外部評価の概要を示し、評価結果の活用についてその実績を記述して下さい。

実施できず。

(2)相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況を記述して下さい。また今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているかについても記述して下さい。

1. 相互評価や外部評価を実施するための組織、規程等の整備状況

平成19年9月、本学は「自己点検評価委員会規程」を改正し、相互評価および外部評価を受けること、自己点検評価委員会はその中心となること規定に盛り込んだ。

2. 今後、相互評価や外部評価をどのように実施しようと考えているか

相互評価および外部評価を認証評価のサイクルの中間に実施し、自己点検評価活動の成果を定期的に公表することとした。

◆名古屋経済大学短期大学部自己点検評価委員会規程 参照

【第三者評価(認証評価)について】

(1)第三者評価を実施するための学内組織の概要を記述して下さい。

第三者評価を実施するための学内組織の概要は以下のとおりである。

(1)自己点検評価委員会

委員会規程にあるように、第三者評価を実施するに際して、当委員会がこれを主導する。

(2)科教授会

教育活動を担う学科の自己点検評価は科教授会が担う。

(3)常設委員会

学生サービスの各分野について、それぞれ全学的観点から点検評価するのは常設委員会の任務である。

(4) 教授会

自己点検評価活動のすべての領域の状況を把握し、これを指導するのは教授会の役割である。

(5) 事務局部長会

自己点検評価活動のすべての領域に精通するのは事務局の部課長である。事務局部長会は自己点検・評価活動の基盤となっている。

(6) 執筆担当者会議

自己点検評価報告書の作成を実際に担当する。各組織の主要な仕事をしている教職員からなる。

(2) 第三者評価に当たって短期大学の決意を述べて下さい。理事長、学長、各部門の長及びAL0(第三者評価連絡調整責任者)がそれぞれ記述されても結構です。

名古屋経済大学短期大学部は平成21年度に認証評価を受けるべく短期大学基準協会に申請を行った。

平成16年に認証評価制度が発足するとともに、本学は適格認定をうけるために、体制を整える努力を重ねてきた。それは以下の点に集約される。

1. 本学の母体である市邨学園の建学の精神の現代的解釈を行うこと、そしてそれに照らして短期大学部ならびに両学科の教育理念、教育目標を見直すこと

2. これまで自己点検評価活動を主導してきた自己点検評価委員会のあり方を見直し、認証評価に対応する組織に改めること

3. 短期大学基準協会の提示する評価基準に照らして、本学の教育研究活動を省み、その改善項目を洗い出し、ひとつひとつ実現させること

すでに述べたように、平成17年に大学・短大を横断する大学運営戦略会議が設置され、全学的な自己点検評価活動が行われたことは、上記の課題を遂行する上で極めて良好な環境を与えることとなった。これがどれだけ達成されたかについては、認証評価の結果に委ねるほかはないが、これまでの認証評価を受けるための準備作業は大変有意義であったと考える。

まずは、今回の認証評価を無事に通過し、その成果の上に更なる教育研究活動の成果を得られるように、自己点検評価活動をいっそう強化していく所存である。

【特記事項について】

(1) この《 X 改革・改善》の領域で示した評価項目や評価の観点の他に、例えば評価に関する教職員への研修の実施等、当該短期大学が改革・改善について努力していることがあれば記述して下さい。

1. 教職員対象の講演会の開催

大学運営戦略会議は平成18年8月6日に講演会を開催した。多くの教職員がこれに参加し、聴講した。

演題「大学のマネジメント・その実践」

講師 静岡産業大学学長 大坪檀氏

大学を経営するということ、学長のリーダーシップ、教職員の意欲をいかに引き出すか、外部との連携をいかに活用するか、などきわめて有意義な講演であった。聴講したものは大変刺激を受けた。

(2) 特別の事由や事情があり、評価項目や評価の観点が求めることが実現(達成)できないときはその事由や事情を記述して下さい。

1. 相互評価及び外部評価を実施できなかった事情

短期大学設置基準の改定を契機に、本学の教育活動を見直すことを迫られた。平成5年に設置された特別委員会はこれに対処するための組織であり、この委員会の課題の先には、本学の改組転換が見通しとしてあった。

この課題を正面から扱う組織として改組転換特別委員会が組織された。審議の経過はそのつど教授会に報告されたが、成案を得るのにことのほか時間を要した。そして、平成17年4月、保育科を除く3学科の統合によるキャリアデザイン学科がようやく発足した。

この間、相互評価の企てが見られたが、ついに実現せず、今日を迎えることとなった。

《注記》

本報告書は平成20年度評価用の「報告書作成マニュアル」に基づいて作成していますが、データの時期や内容について必ずしもマニュアルどおりには記載されておりません。注記してお断り申し上げます。

(名古屋経済大学短期大学部自己点検評価委員会)